

急病の子供とママのお助け隊 院内病児・病後児保育室第2報

白石 裕子

【目的】へき地離島の中小病院である隠岐島前病院(44床)において、2015年5月、院内病児病後児保育室は開設から1年を迎えた。その利用状況、現状について報告する。

【方法】2014年5月12日開設日から2015年5月末までの病児病後児保育室の利用状況について、利用日誌、利用者カレンダー、保育室利用のための診断書等を用いてふり返り、どのような状況で利用されているのか検討した。

【結果】利用患者総数は

137例、1日平均利用者数は0.58例、利用者平均年齢は1.9歳であった。病児と病後児では病児が多く75%を占めた。病児と病後児の差別化については診断書作成時の体温37.5度以上を病児とした。曜日別利用者数では月曜日に利用者が少なかった。利用者の内訳として男女比は3:1で男児が多く、年齢別では0歳児、1歳児、までで60%、0歳から3歳児で82%を占めた。また原因となった疾患名別では上位2疾患の上気道炎、胃腸炎で88%を占めた。また利用者の保護者が当院職員である割合は35%であった。

【結論】院内病児病後児保育を行った結果、1年間でのべ137例の利用があり、病児、男児、3歳以下の利用が多かった。保育室内急変症例は無く、保育士による投薬は数回、準緊急の解熱剤投与は数例であった。院内開設ということで利用者保護者、保育士の安心感があり順調に運用できている。